

鬼	北上市立	館
だ	の	より
第7号		



ぼくらは鬼っこわんぱく隊

鬼っこわんぱく講座で鬼はにわ作り。みんなで協力して、野焼きで仕上げました。

鬼の館の園内に立てて、たくさんの人に見てほしいな。

「全国鬼サミットに 参加して」

小 菅 一 義



シンボルマーク・平成六年制定

平成9年9月6日～7日の2日間、第4回全国鬼サミットが日本最古の鬼伝説の里、鳥取県溝口町で全国14市町村（北は、北海道登別市から、南は、鹿児島県末吉町）から約100人が参加して開催されました。

「鬼」をテーマにしたまちおこしを行っている全国の自治体や団体等が一堂に会し、地域の文化・物産・民俗芸能等のあらゆる面を通して交流を深めあい、個性あるまちづくりを進めるための情報交換を目的としたものであります。

オープニングでは、溝口町民有志で結成した鬼面太鼓のメンバーによる「鬼伝説」が披露されました。

14市町村参加の代表者から鬼を活かしたまちづくりについて、それぞれ紹介がありました。第1回目の開催地であった京都府大江町では、15年前に鬼のまちおこしを始めたが、地域に鬼のサークルや鬼の特産物ができ、みんなで楽しみながら町を豊かにしようとする機運が生まれてきたなど各自自治体とも個性あるまちづくりに取り組まれていました。

全国鬼サミット溝口宣言は、

1、全国の鬼にかかわる自治体、地域、団体等があらゆる面で交流を深め、個性あるまちづくりと地域の活性化を図るため、鬼に関する情報の相互発信に努める。

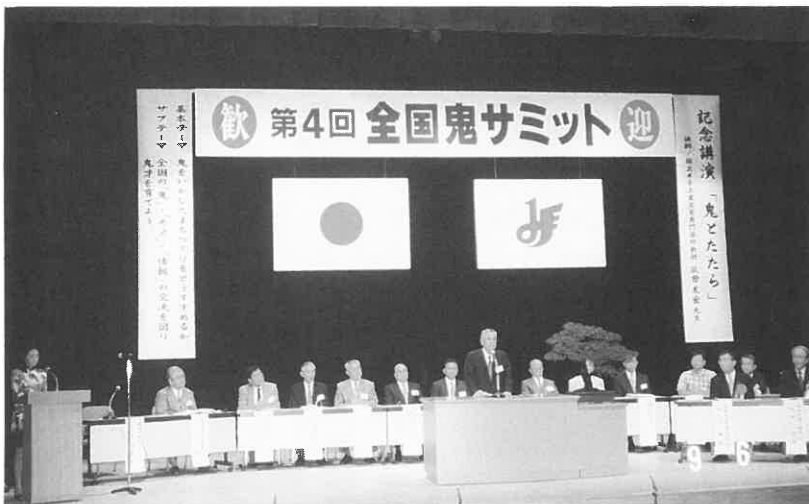
1、まちづくりの原点は、人づくりにあることに鑑み、地域で又、全国で活躍する鬼才を育てるための条件整備に努める。

1、サミットのネットワーク拡大を図るため、鬼にかかわりのある自治体、地域、団体等に積極的に呼びかけ、全国鬼サミットの発展と継続に努める。

以上の宣言を満場一致で採択し、今後それぞれの立場で鬼に関する幅広い活動を展開することを確認したところであります。又、次期開催地は、「桃太郎の鬼退治伝説」で知られる香川県高松市に決定となりました。

記念講演は、「鬼とたたら」と題して、国立米子工業高等専門学校坂田友宏教授により行われました。

鳥取県の三大河川の一つである日野川は、溝口町の中央部を流れる川で流域の鬼退治伝説を紹介する



◀ 第4回全国鬼サミット

場所：溝口町鬼の館ホール

□ 参加市町村（左から）

- 溝口町 登別市 北上市
- 新穂村 鬼無里村 上野市
- 柳田村 亀岡市 大江町
- 高松市 宇和島市 総社市
- 神辺町 末吉町

とともに、たたらに従事していた人々は、周囲の農民から鬼とみなされ鬼伝説が生まれたとの内容のものでした。

今回全国鬼サミットの開催地であった溝口町は、鳥取県の西部にあって、米子市から南に約14kmの位置にある人口5,600人の小さな町です。

古くから語り継がれていた鬼住山の鬼退治伝説は、今からおよそ2,300年前の第7代孝霊天皇の時代のもので日本最古の伝説で、登場する大牛蟹は、田畑を荒らし村人を困らせていた鬼の大将であり、天皇軍との戦いの末、降参し、改心した後、村の人々と力を合わせて村の繁栄に尽くし、善鬼として親しまれているもので町の守護鬼であり、福鬼でもあります。

町では、この鬼をいかし活性化を図ろうと、鬼によるまちづくりが進められておりました。

現在、日野川に架かる鬼守橋のもとに10体の群鬼を設置したのをはじめ、鬼の駅前公衆トイレ、鬼の電話ボックス等が町内に姿をあらわしておりユニークな発想は、一際目立ちました。

また、平成8年4月には、「鬼の館」と、「鬼ミュージアム」が完成し、拠点施設として期待が寄せられ

ておりました。「鬼の館」は、400席の客席を備えた文化ホールで音楽、演劇、講演会など幅広く利用ができる施設です。「鬼ミュージアム」は、三階建てで屋上に高さ18mを誇る日本一の鬼ブロンズ像を鎮座させたもので、内部は、鬼に関する資料の展示室や展望室等となっております。また今春、子ども向けの大型遊園地である「おにっ子ランド」がオープンし親子ふれあいの場として親しまれ、多数の人が訪れているとのことでした。

溝口町は、鬼を町のシンボルとして住みよい豊かなまちづくりを実践し、各地から脚光を浴びようとしている自治体であります。

鬼によるまちおこしを行っている自治体は、全国で70ヶ所ほどあり今回は、14自治体が参加し有意義な情報交換が行われましたが、今後ともサミットを契機に地域の物産、文化、民俗芸能などを通じ交流を深めあい、鬼情報の相互発信に努め、地域の活性化が図られることを望むものであります。

(こすが かずよし 鬼の館主幹兼館長補佐)



▲ 溝口町・鬼の駅前公衆トイレ

溝口駅前の公衆トイレは鬼の顔。人目をひいています。

◀ 溝口町・「鬼ミュージアム」

町を見下ろす丘の上にある「鬼ミュージアム」。3階建の台座の上に18メートルの伝説の鬼“大牛蟹”^{おお牛がに}を鎮座させ、地上からの高さは26メートルにもなります。ブロンズ像の鬼としては、日本一の大きさです。

さらに利用しやすく ～ 歓迎塔とスロープ新設 ～

鬼の館ではこの秋、2つの工事が予定されています。その1つとして10月に鬼の館正面に歓迎塔がお目見えします。これは、従来正面に設置してある幟旗は汚れや破損が激しく、また、遠くから目立たないということもあり、恒常性のある歓迎塔を新たに設置するものです。コンクリート基台付で三角形になっていて、高さは11mあります。この歓迎塔を設置することで、そばを走る秋田自動車道からも鬼の館を確認することができます。

また、身障者用のスロープを新設します。現在使用しているスロープの他に、新たに正面入り口の階段の一部をスロープにするものです。新設することによって、今までのようにアプローチを迂回して館に入らなくても良くなり、身障者の方々の利便を図ることになります。

どちらも鬼の館にとって、来館される方々を迎える際に必要な工事です。鬼の館ではこれからも、来て良かったと言われるような博物館にしていきたいと考えています。



歓迎塔 完成予想図

平成9年度上期新資料から

祖 霊 面

面長27.2cm×面幅16.1cm×面厚9.4cm
材質/木製 寄贈者/伊藤清司氏



南太平洋に浮かぶ10余島の島々からなる、バヌアツ部の部族間で祀られる祖霊仮面です。

祖霊は、家族または血縁集団の、守護神的な性格をもつ祖先とみなされる靈魂をいいます。

祖霊の性格には、地域社会の生産構造と深くかわり、二つの型がみられます。

一つはアジア・アフリカの山地ないし森林地帯の焼畑農耕民・牧畜民の社会にみられるもので、死者を葬儀によって死の世界に送り、祖霊によって浄化された死霊を手厚くまつる型です。

もう一つは、東南アジアから大洋州にかけての農耕栽培民の社会に関係してみられるもので、死霊から先祖霊に至るまで、一貫した祭りを行い、死者に対する恐怖感をしだいに減じて、親しい関係としてとらえる祖先崇拜の型です。

当資料は、第2の型にあてはまるもので、祖先を崇拜する精神信仰の中での祖霊を具象化し、それを仮面として表現したものです。

この仮面は、部族の精神信仰を示すだけでなく、信仰儀礼や地域の習俗を知るうえでも貴重な資料です。

鬼の館のもうひとつの顔

博物館実習指導

～企画運営をするための実技を通して～

博物館は、“物”の展示だけを行い、来観者に公開するだけの施設と一般的に見られています。

確かに展示業務も博物館の仕事のひとつですが、このほか資料の調査や収集・保存活用、さらには教室・講座の開催等他方面にわたる活動も業務として行われます。

これらの業務は、学芸員という資格を所持している専門職によって企画され、運営されています。この学芸員の業務の中には、研究指導の分野も含まれます。

学芸員資格は、大学において履修し、修得する場合と国家試験を受けて取得する場合がありますが、いずれの場合も博物館での経験を必要とします。

当館は、平成6年に開館して以来、4年を迎えています。このような学芸員資格を取得したい方々のために、その指導にもあたっています。

本年度は、盛岡大学と筑波大学から依頼があり、次の内容で実技を主体とした指導を行いました。

1 本年度の博物館実習内容

- (1) 博物館管理運営に関すること
 - a 博物館の実務……一般事務と学芸事務
 - b 受付・接客……手順と対応処理
 - c 博物館の種類……各種博物館を見学して
- (2) 学芸員の業務に関すること
 - a 学芸員の心構え……学芸員の位置付け
 - b 資料調査の仕方……実地調査をとおして
 - c 資料整理の仕方……台帳整備と収納まで
 - d 資料の取扱い……取扱いと保存管理
 - e 記念写真の撮影……既存資料と現場にて
 - f 各種パネル作成……文字、写真パネル作成
 - g 資料展示……既存資料での模擬展示

2 博物館実習の感想紹介

6日間という実習期間は、大学で学んできたことのほとんどを実際に学芸員の方の指導の下で勉強させていただいたので、今までは多少あやふやだった学芸員像というものの中でのっきりとしたものになったように思います。一口に学芸員と言っても、その仕事は多面であって、ポスター作り等は、学芸員と関係のないものというような概念があった私は大変驚きました。

さらに大学でも学んできた企画展についての取り組みも細かく説明していただき、時間と人と物と金銭が上手に使われることが必要だと教わりました。

一つの企画展を開くために、学芸員はいろいろな場所に足を運び、連絡を取り合って、調査をしていかななくてはいけないんだと、実際に写真や書類を見せていただくことによって学びました。

中でも私が一番印象に残っているのは、常堅寺に地獄絵の調査に行った事です。一枚の絵について調査するために二つのカメラで何枚も写真を撮り、絵の技法や絵の具の種類、破損等を細かく記入し、その写真が出来上がりしだい、台帳に整理するという時間のかかるものでした。

実習でなければ出来ないような貴重な経験をさせていただきとても感謝しています。今回の実習が、実際に学芸員になって役立てる事ができるように頑張っていきたいと思います。

(盛岡大学3年 伊藤 涼子)



実習風景 ミニ展示のキャンペーン作り

鬼学ノート

北と南の訪れ者

千葉淳子

はじめに

ナマハゲ・スネカのような訪れ者を迎える行事は、東北地方だけでなく、広く日本の各地に見ることができ、遠くは沖縄の宮古島にも及んでいます。

1年の決まった日の決まった時刻に必ずやってくる訪れ者。迎える人々は、どのような心持ちでこの訪れ者を迎えるのでしょうか。

北と南の訪れ者のいくつかから、訪れ者を迎える人々のこころのありかたなどを探ってみようと思います。

1. なまはげ、やまはげ

今年は、大晦日からお正月、さらには小正月と企画展の調査のために秋田を訪ねました。1月15日、目的の秋田市豊岩の前郷地区まであと少しのところ、「やまはげ」というのぼり旗が立ててあるのに行き合いました。さっそく近くのお店に入って聞くと、今晚やまはげが歩くというのです。

男鹿のなまはげのように恐ろしい風貌の者が、家々を訪ね来る行事を、雄物川流域で「やまはげ」と呼んでいるということは、先に雄和町多草川の沖村という集落の俵面のなまはげを調査した折に、秋田県立博物館の嶋田、高橋の両学芸員からうかがっていましたが、偶然ここで出会うとは思っていませんでした。しかも、ここのやまはげは、それまで私たちが見知っていたものとはどうやら違う格好をしているようなのでした。

2. 山から来る

沖村の俵面のなまはげは、6年ほど前にかつての姿を再現してはじめたもので、大正時代頃に撮影された古い写真には、「山剥」として、棧俵の面に藁の衣装をつけている姿で写っています。

古い写真の山剥は、3人で、一人はマセ棒、もう一人は出刃包丁を、あと一人はかますと算盤を持っています。

かつては沖村でも「やまはげ」と呼んでいたのかもしれませんが、男鹿の「なまはげ」に影響をうけてなまはげと呼ぶようになったのでしょうか。小正月のこうした行事を「やまはげ」と呼ぶ地域は、沖村のほかに雄物川下流の東岸地域の本田、山崎、寺沢の各地域、さらには西岸の豊岩から下黒瀬、下浜八田に及んでいます。

やまはげがどこからやってくるのかという事は、とても興味深い事柄ですが、本田、山崎、寺沢などやまはげと呼んでいる地域では、「山」から来ると信じられています。中にはその場所の名前まで具体的に聞くこともできます。この「山」は、集落を見下ろす、小高い山であったり、崖であったり、そこに暮らしている人々にとってはなじみの深い場所です。そこから来るから「やまはげ」なのだと説明しているのです。

さて、先の「やまはげ」ののぼり旗が立っていたところは小山という集落でした。戸数は98軒、国見会という50歳までの住民で組織される会が行事を取り仕切っていました。

私は、そこで、まさしく今、山からおりてきたばかりだというような風体のやまはげに出会うことになります。

3. 訪れ者の来る晩は

訪れ者が夕刻から晩にかけてやってくるのは、どの地域にも共通したことですが、小山では、午後5時頃からやまはげが歩きだします。

ここのやまはげは、藁の被りものに特徴があります。かつて冬の被りものとして使われていた「ゲボン」に角をつけたかたちのもので、15日の朝から衣装の藁あみや竹笛とともに昼過ぎまでかかって作られます。小山には6つの古いやまはげ面が伝わっていて、これに新たに買い足した面（男鹿のなまはげ面）も加えてこの日のやまはげ役をまかなっています。

この訪れ者は、たいへんに「怖い」。特に子どもたちにとっては、隠れていても必ず探し出されてその前に引き出される恐ろしい鬼です。小山では、中学生が、竹笛を鳴らしながらやまはげたちに付き添います。冬のよく澄んだ空気の中で、竹笛の音は、家でくつろいでいる子どもたちの耳に遠くからでも届くはずで

かつて子ども時代をここで過ごした人たちの中には、この笛の音を聞くといまでも背筋がぴいんとし身が引き締まると話す人もいます。それ程怖いものだったようです。

この日、小山の近隣の集落ではこここでやまはげが現れているのですが、この夜は、どの家でも玄関を開けたままにしておきます。北国では、玄関を風除室をつけて二重にし、寒さを入れない工夫をしている家が多く、家々は、この外玄関の戸を開け放して、玄関灯をともしているのです。

家の者は、奥の茶の間や座敷にいて小正月のご馳走を味わっています。

そこに、突然、やまはげがやってくるのですから、子どもはたいへんです。小学校入学前の小さな子は、お父さんに必死にしがみついて、やまはげを見ないようにするか、泣きだしてしまいます。

ふだんは優しく、自分に味方してくれるお父さんが、この日はどうしてやまはげを追っ払ってくれないのだろう、と思う瞬間です。

小さな子どもは、「こんなに怖いものが家の中に入ってきて、それでも皆は笑っている。おしまいには何かおみやげをあげて帰すようだ」と、年齢を追う毎に、なまはげをただ怖いだけの存在から特別な存在へと感じ始めるのではないのでしょうか。

4. 精神のポケット

小山のやまはげは、ゲボシや藁の着衣のところに杉の葉や笹の葉をつけて、たった今山から降りて来たのだというような姿をしてあらわれます。私には、ゲボシという被り物も、この杉の葉も、笹の葉も、彼の地から私たちを訪ね来る神々の姿としてもとても説得力のあるものに思えました。そして、この神々は、面こそ角や牙をもっていて恐ろしげではあるけれども、姿や行いは、むしろ密やかで、親しみやすいものではなかったかと思います。そして、年の変わり目に祖霊を迎える様々な行いが薄くなった今でも、訪れ者の出現を受け入れる精神のポケットとでもいうべきものの深さを感じています。

そして、この風体が、南の島々の神々ととてもよく似ていることをとても興味深く思っています。

5. 北と南の来訪神

南九州とそれに連なる島々では、盆の行事の最後に奇態なものが現れて、人々を追いかけ回したり、手に持った物でたたいたりすることがおこなわれています。硫黄島のメンドン、悪石島のボゼなどがその例ですが、この時期は、島人が祖霊をたいへん身近に感じて過ごす時であり、亡くなった先祖を墓地に訪ね、祖霊を慰める踊りを思いたったぶりに踊ります。

また、沖縄の宮古島のパーントゥは、つる草を体に巻き古井戸で泥まみれになって、目と口を開けただけというような仮面をつけて現れます。パーントゥには厄を払う特別な効力が備わっているようで、通りで出会う人々や、祭りに他所から訪れた人々には、分け隔てなくつかまえて泥をなすりつけますが、誰も怒る人はいません。新築の家や赤ちゃんの生まれた家では特に訪問を請い、泥を塗ってもらって祝福の印とします。

そうして、人々の心持ちのなかに神々が来訪し、ともに時をすごし、祝福を与えるわけです。

北と南。気候風土はちがっても、これほど訪れ神を迎える人々の気持ちは近いのです。

南の島に訪れる神々をよく知ることは、北の訪れ者の何者かを知る上でとても有効ではないかと思っています。

これから、これらの訪れ神が恐ろしい鬼として表現されるようになったみちすじをたどってみたいと考えています。

(ちばじゅんこ・北上市立鬼の館専任研究員)

企画展図録 ☆ 発売中 ☆

『小正月の来訪者』

～男鹿のナマハゲ・三陸のスネカ～

北の訪れ者の姿さまざま。その正体は？

1部 1,200円

鬼の里便り

○主な来館者

- 4/9 成田亨氏 (当館鬼幻影製作者)
 6/10 栃久保操氏
 6/12 カナダ・マックギル大学教授 井川史子氏
 8/6 ストックホルム大学客研主任 クリスティーナ・ニグレン氏
 8/8 馬場あき子氏、伊藤卓美氏
 インドネシア・バリ州知事
 8/9 故利根山光人夫人
 9/9 早稲田大学教授 G・ツォーベル氏

○鬼学講座

- 6/29 開講式 「鬼の起源」 参加者 30人
 講師 岩手医科大学教授 力丸光雄氏
 7/26 「文学からの鬼」 参加者 29人
 講師 盛岡大学助教授 大石泰夫氏
 9/7 「中国の鬼」 参加者 24人
 講師 慶応大学名誉教授 伊藤清司氏

○鬼っこわんぱく講座

- 5/5 大きな鬼の絵をかこう 参加者 12人
 講師 野村たかあき氏
 6/14 開講式 隊旗づくり 参加者 8人

- 7/20 鬼埴輪をつくろう 参加者 8人
 8/5~7 鬼っこ合宿 参加者 6人
 講師 佐藤克英氏
 9/12~13 鬼の館探検 参加者 10人

○芸能公演

- 4/27 飯豊鬼剣舞 6 演目
 5/4 岩崎鬼剣舞 6 演目
 5/25 鬼柳鬼剣舞 5 演目
 6/22 滑田鬼剣舞 6 演目
 7/27 湯本鬼剣舞 (湯田町) 6 演目
 8/7 岩崎鬼剣舞、行山流口内鹿踊り、荒屋田植踊り、インドネシア・バリ島 [ダルマ・サンティ舞踊団] (北上みちのく芸能まつり)
 8/16 二子鬼剣舞 6 演目
 門岡念仏剣舞 1 演目
 8/24 御免町鬼剣舞 6 演目
 9/28 口内鬼剣舞 7 演目

○第4回大乘神楽大会

- 6/15 和賀大乘神楽、達谷窟毘沙門神楽 (平泉町)
 他 8 団体出演

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
 なお、入館は午後4時30分まで。

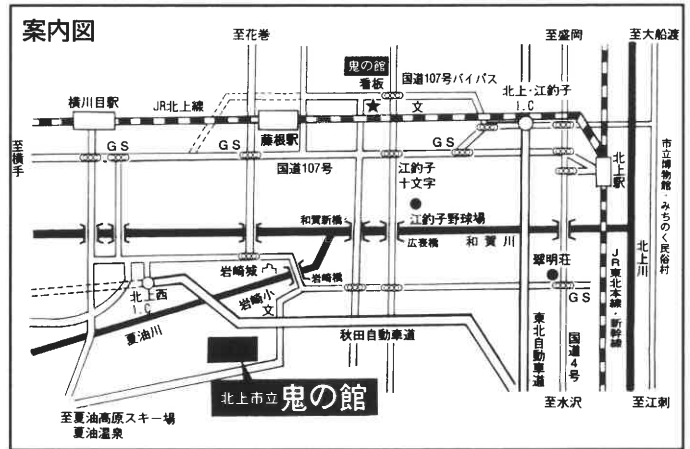
- 休館日**
- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
 - ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
 - ・上記開館の振替日
 - ・12月28日~1月4日まで
 - ・館内整理日(11月27日~30日)

入館料

一般 300円 (250円)
 高校生 200円 (150円)
 小中学生 150円 (100円)
 ()内は20人以上の団体料金。

市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときは入館料が免除になります。

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
 煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月~10月)「鬼の館前」下車。
 - ・JR北上駅より車で20分。
 東北自動車道北上江釣子I.C.、秋田自動車道北上西I.C.からともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第7号 1997.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地
 (H10.2月~〒024-0321)

TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508